

UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川 2021

2021年3月5日（金） - 3月28日（日）大井川鐵道無人駅とその集落

ようこそ、無人駅の先のワンダーランドへ。

16組のアーティストが無人と呼ばれるエリアを多彩に掘り起こす24日間。

コロナ禍における作品制作や開催を模索。いまだからこそ、アートとともに「無人」を考えてほしい。

NPO 法人クロスメディアしまだでは、3月5日（金） - 3月28日（日）の24日間、静岡県島田市及び川根本町を走る大井川鐵道無人駅とその集落をフィールドとした「UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川 2021」を開催します。時代の流れとともに常駐する駅員が不在となり、「無人」と呼ばれる一方で、その集落の地域住民らの存在によって、無人駅は日々細やかに維持され、守られてきました。駅を中核とした集落全体を「無人駅フィールド」と捉え、アートの視点からそこに息づく「記憶」「風景」「営み」を掘り起こし見つめ直し、新たな魅力として発信する取り組みです。国内外で活躍するアーティストが作品表現から地域の魅力、時には課題をも顕在化させ、地域への気づきと交流を生み出すことを目的としています。

今回は昨今の状況をふまえ、オンラインなどの制作方法の導入や、作品は屋外展示をメインとするなどに加え、初の取り組みとして、コロナ禍でのアート表現を全国公募した「Unmanned Stand Project」の発表や、市民企画型の小規模イベントを集約した「アート・プラット／大井川」を開催します。

開催概要

- * 名称：UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川 2021
- * 会期：2021年3月5日（金） - 3月28日（日）
- * 会場：大井川鐵道無人駅とその集落（静岡県島田市及び川根本町）
- * 主催：NPO 法人クロスメディアしまだ
- * 支援：静岡県文化プログラム推進委員会
- * 協力：島田市、川根本町、大井川鐵道株式会社
- * 助成：福武財団「アートによる地域振興助成」、
島田市「アートによる地域づくり推進事業」、
ふじのくに # エールアートプロジェクト

* 公式サイト：<http://unmanned.jp/>

* 参加アーティスト：安部寿紗・形狩り衆・カトウマキ・木村健世・小鷹拓郎・小山真徳・さとうりさ
三本木歎・澁木智宏・ナカムラマサシ・夏池篤・ヒデミニシダ・ひびのこづえ
村上慧・歪んだ椅子・カ五山（加藤力、渡辺五大、山崎真一）



本リリースに関するお問い合わせ（ビジュアル及び素材提供についてもこちらまでお問い合わせ下さい）

NPO 法人クロスメディアしまだ 担当：大石、兒玉

（大石：090 - 8459 - 0120 兒玉：090 - 2260 - 1999）

〒427 - 0029 静岡県島田市日之出町2-3 TEL・FAX:0547-35-0018 Mail：seminar@cms.or.jp

「UNMANNED 無人駅の芸術祭」主催者からのメッセージ

『無人駅がひらくと地域がひらく。』

かつて大井川鉄道は地域をつなぐ大動脈でした。産業の変化、交通網の変化という時代の流れの中、つなぐ役割は残しながらも、地域との関わりのある方は大きく変わっていき「無人駅」という空間が生まれました。「地域の人が減っていく」。この日本中の課題の象徴的な場所が、鉄道駅の「無人駅」だと考えます。情報化・効率化とともに無人化が進む日本の地域社会において、無人駅というフィールドが日本そのものに見えてきます。

しかし、無人駅を入口として広がる集落には、昔からの暮らし、生活文化が今も息づき、畑仕事や隣近所の集まりを大切に豊かでいきいき暮らす人々が確かに存在します。無人の先は有人、もしくは友人…。私たちが、無くしかけてしまった、地域の『記憶』『風景』『営み』があるのです。無人駅は入口。現代社会が置き忘れた姿があります。無人駅をアートでひらくことが、地域がひらくことにつながる、そしてそれは現代社会が忘れかけている新たな価値への気づきにつながる。という想いから、地域づくりの側面から当プロジェクトに取り組んでおります。

UNMANNED（アンマンド）は、無人の、という意味。無人と呼ばれるこの場所で国内外で活躍するアーティスト達が「記憶」「風景」「営み」を多彩に表現する 24 日間。

さあ、無人駅フィールドを舞台とした芸術祭を開催します。あなたの目でアートに彩られた新しい景色を発見してください。

大石歩真（NPO 法人クロスメディアしまだ理事長）



* アートによる地域づくりのスピードを今こそ止めずに。

新型コロナウイルスが世界中に蔓延して早 1 年。世界の在り方は大きく変化しました。移動の制限、人の人の交流の断絶。マスクや消毒が必須になり世界中の至る場所が無人化していきました。この状況下、芸術祭をどのような形で開催したら良いのか議論を重ねてきました。そもそも密になることのない無人駅エリア。作品制作にあたっては、オンラインなど各種ツールを活用した地域での協働制作や、屋外作品をメインとするなど、制作方法や開催方法を模索。またコロナ禍から生まれるプロジェクトを公募した Unmanned Stand Project を募集し、4 組のアーティストを採択。無人でありながら人との交流が可能となるプロジェクトを発表します。

また、ぼくらのまちじゅう文化祭「アート・プラット／大井川」も芸術祭会期に合わせて開催。これは大規模イベントの開催が困難であるなか、本芸術祭と連動し、市民が主体的に小規模な文化プログラムを企画し実施するもので、初開催でありながら 25 の様々なプログラムが実施予定です。

人はなぜ生きるのか。コロナ禍の今、その問いはより鮮明に浮かび上がります。改めて、現代社会が忘れていた豊かさの意味や人間の底力のようなものを「無人と呼ばれる場所」からアートを手法に発信していきます。

「UNMANNED 無人駅の芸術祭」参加アーティスト及び作品プランの一例



ひびのこづえ

静岡県生まれ 東京芸術大学美術学部デザイン科卒業。

コスチューム・アーティストとして広告、演劇、ダンス、バレエ、映画、テレビなどその発表の場は、多岐にわたる。NHK Eテレ「にほんごであそぼ」のセット衣装を担当中。歌舞伎「野田版 研ぎ辰の討たれ」野田秀樹作・演出「Q」など多数の舞台衣装を担当。森山開次ダンス「星の王子さま」KAAT 衣装担当。

* 作品タイトル：「RYU」 藤村港平×ひびのこづえ×小野龍一

その土地にある、いにしえの歴史、伝説、言い伝えをテーマに。パフォーマンスの中で、どんどん進化を遂げ、未来に向けた新たな「伝説」を生み出していく。ダイダラボッチから未来を翔ける龍の登場まで、不思議なフォルムの衣装と、ダイナミックな身体と、空間をタイムスリップする音が、時空を超えます。作品発表の舞台は、本芸術祭参加アーティストであるヒデミニシダの「境界の遊び場Ⅰ／浮かぶ縁側」。広大な茶畑の中に立ち上がる円形の縁側を舞台に大井川や無人駅エリアの土地の歴史、伝説を、パフォーマンスによって新たな「伝説」として息を吹き込みます。

* 公演場所：大井川鐵道抜里駅エリア（ヒデミニシダ・境界の遊び場Ⅰ／浮かぶ縁側）

* 公演日（料金 1,000 円・座席 20 席（予約制））

3月6日（土）14時～

3月7日（日）11時～ / 14時～

3月20日（土）15時～

3月21日（日）11時～ / 14時～

※リハーサル：3月5日（金）予定



（会場となる浮かぶ縁側）

ひびのこづえの衣装をまとったダンサー藤村港平が小野龍一の音楽と共にパフォーマンスを行います。大井川流域のいにしえからの伝説を未来に向けて新たな伝説に変換。パフォーマンスの舞台は、ヒデミニシダ「境界の遊び場Ⅰ／浮かぶ縁側」。当芸術祭でしか見ることのできないコラボレーションが広大な茶畑に立ち上がります。

NPO 法人クロスメディアしまだ

「UNMANNED 無人駅の芸術祭」参加アーティスト及び作品プランの一例



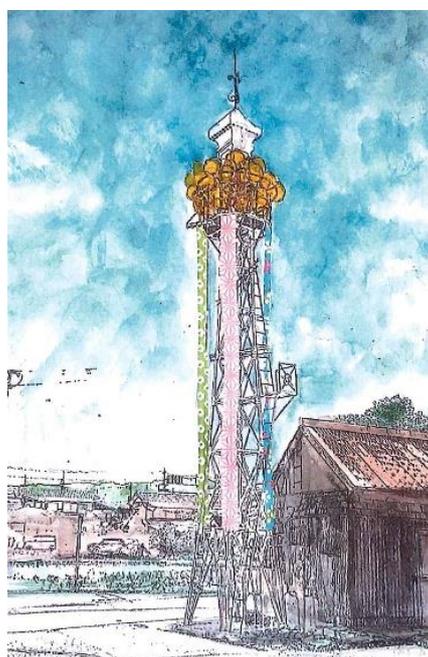
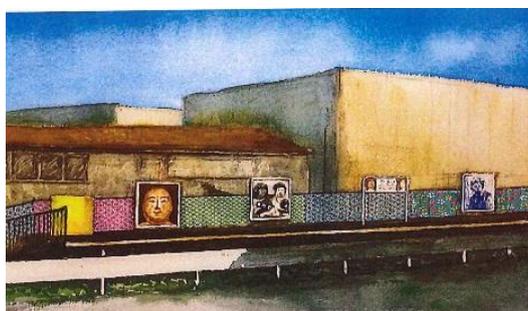
力五山（リキゴーサン）

越後妻有アートトリエンナーレ 2009 出品を機に結成された、加藤力・渡辺五大・山崎真一の美術作家によるアートプロジェクトユニット。代表は加藤力。3人の名前 から力・五・山と それぞれ一文字ずつをとり命名。各々の作品性を維持しながらも三位一体 となり、アートを媒体として地域社会の活性化を目指す「ゆるやかな共同体=協働体」である。

* 作品タイトル：表参道一願いをつなぐ *

「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川」大井川は江戸時代より東海道の難所とされてきた場所である。人との隔たりのある場所をつなぐと言うことが、とても大事な土地柄であろう。この地に住む人々は結びつきを大切にしている方々だと感じている。大井川鉄道は蒸気機関車や古い列車を現在に復活させ、過去、現在、未来に願いを込めて繋いでいる。日限地蔵尊は、人々の具体的な願いを叶える地蔵で、境内には参拝に訪れる人々が途切れぬ。力五山は、この大井川鉄道の「日切駅」と「日限地蔵尊」を結びつけ、過去、現在、未来へと願いをこめて繋いでいく作品を展開する。

* 作品設置場所：大井川鐵道日切駅～日限地蔵尊エリア



「日切駅」から「日限地蔵尊」までの道のりとエリア一体をフィールドとした作品。地域の方にインタビューを重ね、過去、現在、未来をつなぐ大規模作品です。

< 過去作品 >

2012、2015、2018 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ

「祭-還るところ-」「つなぐ-還るところ-」「十日町高倉博物館-還るところ-」

2017 奥能登国際芸術祭 2017 「潮流 - ガチャポン交換器 - 」

2019 藤沢今昔・まちなかアートめぐり



NPO 法人クロスメディアしまだ

「UNMANNED 無人駅の芸術祭」参加アーティスト及び作品プランの一例



さとうりさ

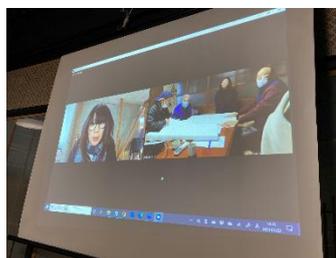
1972 年東京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了。作品を用いたコミュニケーション手法を探り、屋外で展開するオブジェ作品を数多く制作。他に絵本制作、教育番組のアートディレクターなど活動は多岐に渡る。

* 作品タイトル：地蔵まえ 4 (縫い合わせ)

これまでの「無人駅の芸術祭」のなかで制作したオブジェ作品が、地元の方々の協力を得てバルーン作品となって現れます。オンライン対話と配送を駆使した協働制作は、私たちにどれくらいの達成感を与えてくれるのでしょうか。またそれはどんなふうに見る人へ伝わるのでしょうか。



* 作品設置場所 (大井川鐵道抜里駅エリア)



コロナ禍の中、集落の方々とオンラインを活用。さとうりさと集落との信頼関係と絆から生まれる協働作品。制作の経過も SNS,HP に掲載。

「UNMANNED 無人駅の芸術祭」参加アーティスト及び作品プランの一例



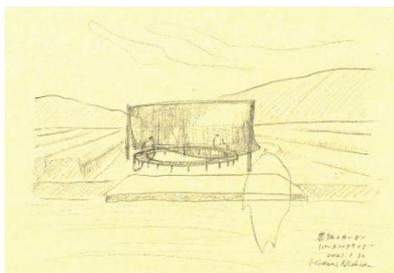
ヒデミニシダ

1986 年北海道小樽市出身。風景との対話を楽しむ環境芸術作品を多く手がける。ベルゲン芸術大学大学院を修了後、東京を拠点に活動。2018年～2019年にかけてポーラ美術振興財団在外研修員としてモスクワに滞在。

* 作品タイトル：「境界の遊び場Ⅱ／ちゃばらのカーテン」

茶畑の一角にひらひらと漂う大きなカーテン。その下には円形のベンチが設えられ、抜里の風景を訪れる人々の休息の場となります。茶畑の空に漂う薄く柔らかな布地の向こうには世界の輪郭が浮かび上がり、はためく裾から見え隠れするその端々に、世界の細部がきらめくでしょう。

* 作品設置場所 (大井川鐵道抜里駅エリア)



前回発表の「境界の遊び場Ⅰ／浮かぶ縁側」に加え、新たなシリーズ作品「境界の遊び場Ⅱ／ちゃばらのカーテン」が登場。景色と作品を融合させることの得意なヒデミニシダらしい作品です。

「UNMANNED 無人駅の芸術祭」参加アーティスト及び作品プランの一例



木村 健世

多摩美術大学建築科卒業。「まち」にさまざまなプログラムを挿入し場を再解釈するプロジェクトを手がける。近年は人の暮らしが紡ぐストーリーを聞き取りによって集め、場を文庫として捉える作品を多数展開している。

* 作品タイトル：無人駅文庫・塩郷

無人駅を形作るもの。線路、ホーム、架線、風、それと人々が駅に残した記憶の欠片。インタビューによって集めた塩郷駅にまつわる記憶それぞれを一編の小説として捉え、あらすじを記した文庫目録を駅のホームに置く。数々の物語の断片はどんな駅の風景を見せてくれるだろうか。

* 作品設置場所（大井川鐵道塩郷駅エリア）



無人文庫アーカイブシリーズ。今回は塩郷駅。2か月に及ぶ集落の方へのインタビューが、文庫目録として「物語のはじまり」部分を紡ぎます。誰が読んでも懐かしくて暖かい、「私の物語」に昇華する作品群です。

「UNMANNED 無人駅の芸術祭」参加アーティスト及び作品プランの一例



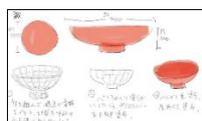
小山 真徳

1981年 愛知県生まれ。参加作品展として、2018年 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ、2017年 奥能登国際芸術祭、2015年 中之条ビエンナーレ、2014年 第17回岡本太郎現代芸術賞展、2013年 瀬戸内国際芸術祭

* 作品タイトル：盃と沢蟹

大井川流域には、ダイタラ坊の伝説が残されている。わたしはこの巨人が使っていたであろう盃が大井川の河川敷に流れ着いた光景を表現したいと思う。大量の木材を流送し、高瀬舟が行き交った、かつての満々と水を湛えた大井川の面影を、作品を通して想起させたいと思う。

* 作品設置場所（大井川鐵道抜里駅エリア/河川敷）



2か月前から今なお、たった一人で巨大な盃を大井川で制を続ける小山真徳。大井川に残るダイダラボッチ伝説に想起し巨人が使った盃を表現。雄大な大井川で長期にわたって巨人と格闘し続けた小山氏の軌跡と満々と水をたたえていたかつての大井川に想いを馳せる作品。

「UNMANNED 無人駅の芸術祭」連動企画 「Unmanned Stand Project」 ※初の取り組み

無人の場を、新たなコミュニケーションの場。無人販売プロジェクト Unmanned Stand Project 公募。
コロナ禍だからこそ、のアート表現を全国公募により募集。

「過疎による無人」と「時代の先進による無人」に加わり予期せぬ「コロナ禍による無人」を受け、新型コロナウイルスと共存していかねばならない未来に向け、モノの価値や、そこに付随した物語、あるいは人そのものの気持ちをコミュニケーションする機能を有した「無人の場」をつくっていくための、アートの持つ限らない力を活用する取り組みとして、「ふじのくに#エールアートプロジェクト」の支援をうけ実施。数十件の応募のうち、4組のプロジェクトを採択。

* 安部寿紗 「お米のあかちゃん」

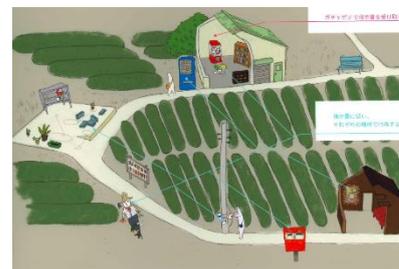
《お米のあかちゃん》をつくる、名付ける、名前を呼ぶということを行います。会期前ワークショップ参加者および希望者につくる体験をしてもらい、会期中、訪れた方に名前をつけてもらいます。そして会期最終日にわたしはお米のあかちゃんの名前を呼ぶパフォーマンスをします。



* 歪んだ椅子 「相関差模型」

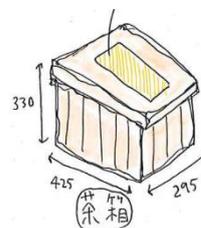
会場にはガチャポンが置いてあります。

鑑賞者はガチャポンから指示書の入ったカプセルを手に入れ、指示を通して作品に参加します。その場にいない不特定の相手と影響し合うことで、予感される全体像の共有を試みます。



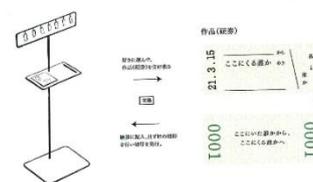
* 三本木 欽 「Tea Box Journey」

古くより国内外への輸送手段として用いられてきた茶箱。その本来的な姿である、「茶葉を運ぶ」という用途を鉄道を介して再現し、そこに無人駅と人々との新たな関係性を構築する。茶箱と共に車窓の旅を楽しむひととき。箱の蓋は車内に乗車後にお開けください。



* 澁木智宏 「ここにいた誰かからここに来る誰かへ (仮)」

鑑賞者がこの駅に訪れるであろう誰かのために切符を発行し、ここにいた誰かが発行した切符を受け取る。ここにいた他者の痕跡に想いを馳せ、ここに来るであろう他者を思うコミュニケーションの機会に。



NPO 法人クロスメディアしまだ

「UNMANNED 無人駅の芸術祭」連動企画 「アート・プラット／大井川」※初の取り組み

初開催！芸術祭会期に合わせて。

ぼくらのまちじゅう文化祭「アート・プラット／大井川」を同時開催。

芸術祭会期にあわせ、市民が様々な文化的プログラムを企画・実施し、市民も文化に発信者となることで、地域の文化力の発信と担い手作りを目的とする。初開催の今回は、芸術祭関連プログラムと合わせて 25 のプログラムを実施予定。小規模でありながら、日本酒、緑茶、コーヒーからのづくり、ハイキング、歴史など様々な市民目線のテーマや強みを生かしたプログラムが並びます。

■開催プログラム

- ・ 期間：2021年3月6日(土)～22日(月)
- ・ 場所：大井川流域地域全体（島田市内ほか）
- ・ プログラム数：計25件
（市民企画プログラム20件、公式プログラム5件）

■プログラムの流れ

<企画者>

- ①企画づくり（こんなことやってみたいをサポート、相談会を開催）
- ②登録（日時、会場、参加費などを決定し登録）
- ③広報&受付（予約申込は運営事務局または企画者へ直接）
- ④開催

<参加者>

- ①選ぶ（パンフレットまたはWEBサイトでプログラムをチェック）
- ②予約する（予約申込は運営事務局または企画者へ直接）
- ③参加する



■プログラムの例

- ・ みんなのダイニング「ツクリテ市」
- ・ あなたの知らないコーヒーの世界
- ・ みどり探偵団～やっぱりみんなとお茶したい
- ・ 島田市立図書館でアート特集
- ・ ハーバリウムボールペンづくり
- ・ オリジナル消しゴムハンコを作ろう！
- ・ 白岩寺ハイキングツアー

【芸術祭公式プログラム例】

- ・ 開幕記念アーティストトーク（オンライン）
- ・ 芸術祭公式ガイドツアー
- ・ 山出淳也氏講演会「これからの地域とアート」
- ・ 島田の文化の先駆け「蘭契約会を知ろう」